

東アジア学生ワークショップ参加報告書

京都大学文学部 交換留学生 モリーン・カリン

5日間、ソウル大学校で行われた東アジアジュニアワークショップに参加してきました。スウェーデン人の留学生なので、おそらく一緒に参加した日本人学生とは少し違う経験だったかもしれません。スウェーデンのストックホルム大学で日本語・日本文化を専攻しており、勉強で台湾や韓国については少ししか触れたことがありませんでした。私にとって東アジアジュニアワークショップは、ソウル大学校と国立台湾大学の学生たちと友人関係を築くことや、ソウルでフィールドワークしたり、発表を聴いたりすることを通して、より東アジアのことを知る機会となりました。以前からは日本にしか興味を持っていませんでしたが、このワークショップを通して、韓国と台湾への関心が高まり、新たな発見のおかげで視野も広がりました。学生たちの発表とソウル大学校の先生方の発表などを聴いて、社会学の知識も深まり、そして何よりも社会学の勉強に対するやる気が出ました。

しかも、他人の発表のみならず、自分の発表にあたって、学ぶことが多かったです。このような学問的なワークショップで、しかも違う国で知らない人の前で、そして英語で発表をするのは初めてでしたが、本当にいい勉強になりました。質疑応答の時も様々なことを考えさせられましたし、先生方の指摘のおかげで今度社会学のことで発表する時に、どのように社会学の知識を生かして発表を向上できるかについても考えさせられて、様々なことについて学ぶことができました。そして、このようなワークショップで自分が考えた発表ができて、素晴らしい達成感を味わい、自信がつけました。

日本人ではないのですが、ソウルの歴史の博物館を訪れた時、日本統治時代の朝鮮について展示されており、日本人だったらどのような気持ちで観るのかな、と思ったりしていました。アジア出身ではない私はなんだか外から全てを観察しているような感じが少ししました。日本人、韓国人と台湾人が交じっているのを見ていて、なんだか力強かったです。

予想以上に楽しい時間が過ごせて、貴重な5日間は本当に短く感じました。社会的な面でも、自分の成長の面でも、充実した期間でした。